

26011-1407

令和 7年 9月 11日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号について

令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病害虫名：キク小斑点病

2 病原菌名：*Stemphylium lycopersici* (Enjoji) W. Yamamoto

3 作物名：キク

4 発生確認の経過

令和6年(2024年)10月下旬、県西部の施設キクほ場(品種:精の一世)において、中位～上位葉に褐色の輪紋や葉縁部が褐色に枯れる株が確認された(図1、2)。

当該株を採取し、宮崎県総合農業試験場で分離菌株の形態観察および遺伝子解析を行った結果から、*Stemphylium lycopersici* と同定した。また、本病菌をキクの幼苗に噴霧接種したところ、病徴が再現され(図3)、*Stemphylium* 属菌が再分離できたため、本病害は *Stemphylium lycopersici* によるキク小斑点病と判断した。

5 国内の発生状況

国内では、令和4年(2022年)に佐賀県で初めて発生が確認されて以降、令和5年(2023年)に福岡県で発生が確認されており、両県から特殊報が発出されている。

なお、本菌はトマト斑点病やトルコギキョウ褐斑病を引き起こし、これらの茎葉に病斑が形成されることが知られている。

6 病徴

葉に褐色の輪紋や、葉縁部が褐色に枯れる症状がみられる(図1、2)。

7 病原菌の性質

糸状菌の一種で不完全菌類に分類される。分生子柄の先端は膨らみ、黒褐色の環紋を有する。分生子は淡褐色～褐色であり、先端が円錐状の俵～長楕円形で、隔壁部がくびれている(図4)。生育適温は25℃である。

8 防除対策

- (1) 令和7年8月現在、本病に対する登録農薬はないため、耕種的防除を行う。
- (2) 罹病葉や罹病残渣は伝染源となるおそれがあるため、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- (3) ほ場内の排水対策を徹底する。また、施設内が多湿にならないよう、適宜換気を行う。



図1 被害株



図2 被害葉



図3 噴霧接種による病徴の再現



図4 *Stemphylium lycopersici* の分生子

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪・後藤

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiry@pref.miyazaki.lg.jp

HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

